

## 北海道合鴨水稲会

# 水かき通信

### 【目次】

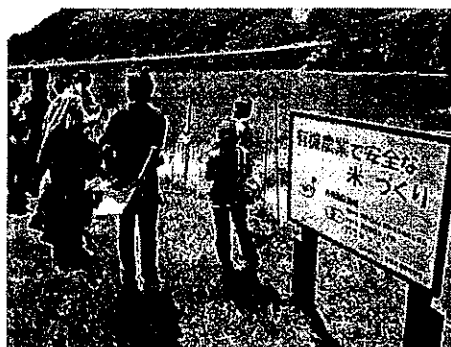
第10回圃場見学会報告（清水池義治）	1
第10回圃場見学会に参加して（清水麻衣・中村悦子）	8
合鴨とともに〔北大祭出店によせて〕（井上淳生）	10
新聞記事	12
事務局からのお知らせ	15

## 第10回北海道合鴨水稲会圃場見学会報告

事務局 清水池 義治

2004年7月18、19日、檜山管内瀬棚町において、今年で第10回目となる記念すべき北海道合鴨水稲会圃場見学会が開催されました。前日までの雨がうそのように晴れあがり、絶好の見学会日和となりました。当日の強い日差しは真夏の到来を告げ知らせているようで、私の軟弱な肌も黒く日焼けしました。水田の稲の青さが目にまぶしく焼きついており、その瑞々しさとともに印象に強く残っています。さて今年の見学会では、瀬棚町で合鴨農法を実践しておられる平田克則さんはじめ農家5軒と、今年1月に開設された「ワタミファーム瀬棚農場」を訪問・見学させていただきました。見学会参加者は、当会会員後継者2名、そ

して北海道大学院生4名、酪農学園大学生2名を含む合計25名で、訪問先の農家・農場の方のお話を熱心に聞くとともに、活



発な意見交換をもおこなっていました。

### 1. 瀬棚町農業の概況

それでは詳細な報告に入る前に、瀬棚町

における農業の現状について簡単に触れておきます。瀬棚町は農業と漁業を主要産業としています。瀬棚町の農業は全農家戸数50戸で、そのうち酪農畜産経営が全体の8割を占め、稲作経営は17戸、畑作経営は複合経営の一端として耕作されています。

稲作経営農家は17戸で経営面積は73haになっています。うち、有機認証圃場は6.3haで全水田面積の9%、取り組み戸数は5戸で全体の29%になっています。この5戸は合鴨農法実践農家であり今回訪問した農家です。合鴨農法実践面積は、有機未認証田29aを含む6.6haです。有機認証水田の推移は表1のようになっています。有機米のうち今年度は、酒造米(吟風)は163a、100俵の生産予定で、価格は1俵あたり2万円程度で取引さされており、純米酒「吟子物語」と米焼酎「風海鳥」に加工されています。懇親会の際に私もいただきましたが、大変まろやかで美味しいお酒です。食用米(ほしのゆめ)については、1999年度から学校給食、2000年度から老人ホームや診療所の給食に取り入れを始め、2003年には道の「チャレンジ21事業」により有機米精米機を導入し、地元を中心とした販売を拡大しています。学校給食で合鴨米が食べられるとは、うらやましい限りです。今年から、除草機や米ぬか除草等の試験をおこなっており、また13.8ha、6戸で道の「Yes! Crean」にも認証され、特別栽培米にも取り組んでいます。

畑作経営は14戸、44haとなっており、主な作物は馬鈴薯、かぼちゃ、アスパラ、ピーターコーンなどです。有機認証圃場は

20haで、そのうち先述のワタミファームが18haで大豆、レタス、大根、かぼちゃ、馬鈴薯を親会社、量販店などに販売しています。そのほか、有機部会の大葉は札幌に出荷しているほか、地元での販売が中心になっています。

酪農経営農家は29戸、飼養頭数は約1,200頭で、1頭あたりの乳量は年間7,000kgになっています。有機酪農への取り組みは、1998年度から町営農畜産物加工センターでの原料乳として乳代1kgあたり20円の奨励措置がおこなわれています。アイスクリーム、ソフトクリーム、バターに使われており、年間70tの生乳が加工されています。瀬棚町独自の有機生乳生産基準も2002年に定められています。2004年度中には国の有機畜産基準も施行される見込みであり、現在ワタミファームを中心に有機畜産の認証取得に向けて取り組んでいます。

瀬棚町では、1998年より町として有機農業へ積極的に取り組んできており、2004年3月には瀬棚町全域が国の「有機酪農・有機農業推進特区」の認定を受けています。町からの財政支援にあらわれているように(表2参照)、町として有機農業に取り組んでいくという姿勢は、これから重要視される地域単位での農業振興の事例として注目すべきと思われます。その中でも瀬棚町の農業に占める合鴨農家の存在は大きく、これからの活躍が期待されます。

表1 瀬棚町有機水田面積の推移

生産者	H10(1998)	H11(1999)	H12(2000)	H13(2001)	H14(2002)	H15(2003)		H16(2004)	備考
	平田・高橋・諸戸	平田・高橋・諸戸・岡崎	平田・高橋・諸戸・岡崎	平田・高橋・諸戸・岡崎・上野	平田・高橋・諸戸・岡崎・上野	平田・高橋・諸戸・岡崎・横山	%	平田・高橋・諸戸・岡崎・横山	
生産者数	3	4	4	5	5	5	29.4	5	
有機	酒米	0	0	104	174	256	3.5	163	H12年12月有機認証
	食用米	0	0	0	0	247	4.6	426	
計	0	0	0	104	174	503	8.1	589	
転換期間中	酒米	0	0	0	64	0	0.0		
	食用米	0	0	0	0	130	0.0	44	
計	0	0	0	64	130	0	0.0	44	
未認証	酒米	124	265	265	82	0	0.0		緩衝田・転換1年目
	食用米	0	144	144	179	47	0.8	29	
計	124	409	409	261	129	47	0.8	29	
小計	酒米	124	265	265	250	174	3.5	163	マツマエ・初葉・吟風
	食用米	0	144	144	179	424	5.3	499	
合計	124	409	409	429	598	646	8.8	662	ほしのゆめ
特別栽培	0	0	0	914	0	0	0.0	1380	道の認証取得予定
水田面積	7300	7300	7300	7300	7300	7300	100.0	7300	

出典) 瀬棚町産業振興課資料

表2 平成15年度までの有機農業に関する諸施策

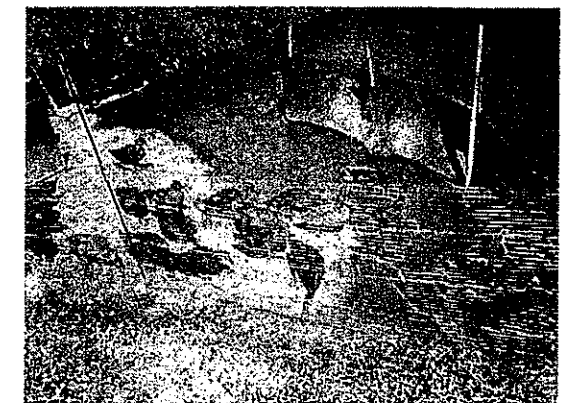
- ①有機稲作の施策(試験圃設置、電牧柵、有機資材の補助) 3,484千円
- ②有機畑作の施策(土壌改良試験、ハウス栽培試験) 3,210千円
- ③有機酪農の施策(有機牛乳生産に向けた要領作成、奨励金20円/kg)
- ④有機農業担当職員の採用(JAS有機検査員)H12年11月～
- ⑤JAに有機栽培開発部会の設置(H13年5月～)
- ⑥有機農業推進事業奨励補助金(H12～H18) 補助金330万～150万円/年
- ⑦有機米精米施設(道8,946千円、中山間2,549千円、町補助金2,740千円)

※瀬棚町産業振興課の資料より作成。

## 2. 圃場見学

集合場所の瀬棚町役場前では、集まった会員の方々の間でさっそく会話の花があちこちで咲いています。一同の意気ははやくも上がる中、一軒目の諸戸さんの圃場へ皆で移動します。諸戸さんは今年度当会の世話人を務めておられ、合鴨農法を取り入れて6年目になります。合鴨農法の水田はキツネなどから合鴨を守るために電牧柵が張ってあるため、遠くから見てもそれと分かります。私はこれまで合鴨農法の圃場を見たことがなかったので、稲と稲の間を合鴨がスイスイと泳いでいる光景が見られると

イメージしていましたが、水田の奥の方に合鴨が入ってしまうと、意外にも合鴨の姿が稲に隠れて見えません。水田の稲は、合鴨の隠れ場所を提供していることを思い出して納得しました。諸戸さんの経営耕地は、



水田 4ha (うち休耕田 50a) に牧草地 20ha (借地含む) です。北海道有機認証協会による有機認証圃場の認定を 2000 年 12 月に受けておられます。今年、水田に入れた合鴨は 120 羽です。去年はキツネやカラスに 60 羽ほどやられたそうですが、今年は今のところ目立った獣害はないそうです。諸戸さんの水田には、稲が欠けてプールのようなになっている個所がありましたが、これは合鴨の習性によるものとのことでした。夜間、合鴨を小屋などに入れずにとおくと、稲をむしってこのようなプールを作ってしまうそうです。諸戸さんの圃場には小屋はありませんでしたが、小屋に入れるために合鴨を飼いなす労苦と、合鴨による稲の欠損をどう判断するかがひとつのポイントになると思います。堆肥の投入量は 10a あたり 3t で、使用する堆肥は近隣の酪農家から稲ワラと交換して入手します。合鴨による除草のほかに、今年度から導入した新しい除草機 (後述) 等を使って 3 回、人力で 1 回ほど除草しているそうです。



つづいて諸戸さんの隣りにある高橋さんの圃場へ移ります。高橋さんからは、合鴨の写真入りのかわいい名刺をいただきました。高橋さんの経営耕地は水田 10ha (うち借地 2ha) と、酪農をなさっています。合鴨同時作の面積は 2ha で、有機認証を受けておられます。今年入れた合鴨は 200 羽で、

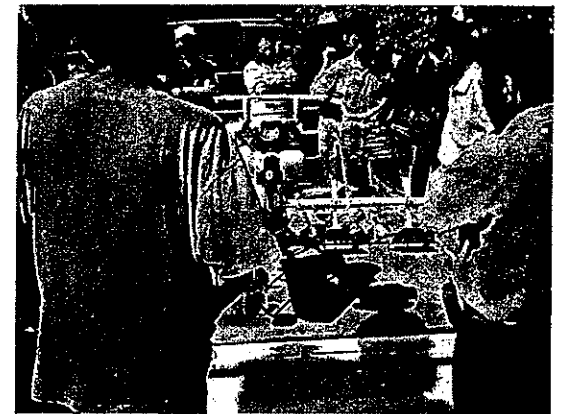


損失はおおよそ 1 割とのことでした。圃場の隅には小屋が設置してあります。合鴨が稲の穂をつつき始めたので、水田からはすでに上げられていました。合鴨米は、学校給食用と酒造用にも供給されています。また、圃場の後背にある傾斜地では乳牛が草をのんびりと食べており、乳牛の糞尿から堆肥を作り水田に投入されているそうです。部分的にはありますが、乳牛→堆肥→水稻→稲ワラ→乳牛の循環が成立しているわけです。

3 軒目は横山さんです。横山さんは石川県から瀬棚町へ就農されて、今年で 4 年目です。離農する方の圃場を引き継いで、元の農家との研修を 2 年間ほど経ての就農は、理想的な引継ぎ方と言えるでしょう。横山さんの経営耕地は、水田 4.5ha (うち有機認証田 1ha) と有機のアスパラです。あと、横山さんの奥さんが毛織物をやられているそうで、その原料となる毛羊種のマンクスロフタンというヒツジが数頭飼養されています。合鴨同時作の面積は 70a で、有機認証を受けておられます。今年水田に入れた合鴨は 70 羽で、見学会の数日前にイタチの被害に 1 羽遭ったぐらいで、今年は獣害はほとんどないそうです。この圃場の合鴨はよく飼いならされていて、横山さんが呼ぶと集まってきます。これほどならされていれば、圃場にある小屋に合鴨を入れるのも容易そうです。現在の経営面積で家族全員

がつつがなく生活できるような農業経営が目標と、横山さんは仰っていました。

次は、平田さんの圃場へ向かいます。平田さんの経営耕地は、水田 8.3ha と草地 22ha です。合鴨同時作の面積は 1.2ha で、北海道有機認証協会による有機認証圃場の認定を 2000 年 12 月に受けておられます。合鴨は 1 反につき 10 羽ほど導入し、今年はキツネに 25 羽、野鳥のノスリに 3 日に 1 羽くらいのペースで被害に遭っているそうです。天柵が他の圃場に比して、びっしりと張ってありました。平田さんのお話を聞いている際に、ある会員の方が畦の草をむしって「これ何の匂いだと思う?」と言われました。嗅いでみると、ハーブの香りがします。カメムシなどの害虫を寄せ付けないために、水田の畦にハーブを植えるということは知っていましたが、現場を見るのは初めてです。また、水田の泥を触ってみるよういわれたので、触ってみると驚きです。トロトロというかサラサラというか、大変手触りが良かったので驚きました。また、今年から導入したという除草機について実物を前に、主に諸戸さんから説明がありました。この除草機は、ホクエツの水田用株間除草機「あめんぼ号」で 6 条式です。機械の仕組みを見ますと、除草する原理はとても簡単なものようです。諸戸さんによると、この除草機の使い具合は結構良いそうです。この除草機の仕様や性能をめぐって、早速質問、意見交換がおこなわれました。



ワタミファームを訪問した後、最後に岡崎さんの圃場を見学しました。岡崎さんの経営耕地は、水田 4ha とカボチャ 30a、アスパラ 50a、さくらんぼ若干となっています。そして草地 10 町に黒毛和種を 40 頭ほど飼養されています。合鴨同時作の面積は 80a で、今年は合鴨 80 羽ほど入れているとのことでした。

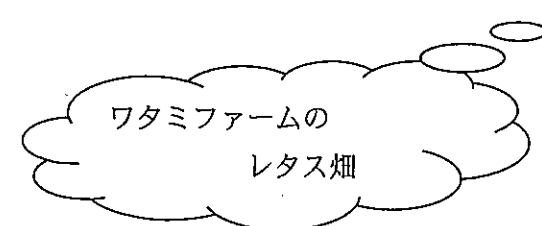
### 3. ワタミファーム見学

今回の見学会では合鴨農家のほかに、株式会社経営の下での有機酪農・畑作を目指しておられる「ワタミファーム瀬棚農場」を訪問しました。ワタミファームに到着すると、優しい顔をしたブラウンスイスが私たちを出迎えてくれました。挨拶もそこそ



ここに、農業者らしい逞しい肉体と精悍な顔つきが印象的な西川農場長代理から、早速現状についてお話を伺いました。

ワタミファームは、大手居酒屋チェーン



のワタミフードサービスを親会社とする株式会社です。瀬棚農場はワタミファームが3年前から全国に設置してきた5農場(計画も含む、他は群馬、千葉など)のうちのひとつで、2004年1月に開設されました。株式会社の農業経営への参入は、ワタミファームが道内では初となります。本年3月、国による瀬棚町の「有機酪農・有機農業推進特区」の認定(\*)を受けて、町を通じて地元酪農家から農地を借り経営を開始しました。現在の全耕地面積は約65haで、うち牧草地40ha、畑地15haなどとなっています。ワタミファームに農地を貸している地元酪農家は他にもない西川さんで、現在はいったん離農したうえでワタミファームに雇用されるという形態をとっています。



各農場の責任者は社長で、密に連絡をとって現状を把握しつつ、数ヶ月に一度は実際に農場に足を運びます。各農場に常駐するのが、農場長代理です。瀬棚農場では、常勤社員が3~4名、バイトが3名、他にワタミ志望・内定者の学生、また高校生をインターンシップの形で受け入れています。この日は、江別から来た高校生十数名が圃場で汗を流していました。

酪農経営は、乳牛(ホルスタインとブラウンスイス)45頭、うち搾乳牛は23頭です。ブラウンスイスはチーズ製造用で、生乳10リットルでチーズ1kg生産でき、これはホルスタインの倍であるとのことでした。

またホルスタインに比して、ブラウンスイスは配合飼料をあまり必要としないそうです。牧草地40haとレントコーン6haで飼料を自給していますが、完全自給とはいかず配合飼料を中心に輸入に頼っています。しかし、輸入物を含め飼料は全て有機認証を受けています(ちなみに、有機の配合飼料は価格が通常の3倍!)。現在の乳量は、1日あたり350リットルです。また、北海道乳業から瀬棚農場産の有機牛乳の試験販売が予定されていて、価格は1リットルあたり300円くらいを想定しているそうです。

畑地では全15haのうち、レタスが3~4ha、大豆、カボチャ、スイートコーン、大根などが栽培されていて、全て有機栽培です。農場には、レタス用の予冷機も設置してありました。圃場ではお話を伺いながら、レタスをいただきました。太陽の日差しをいっぱい浴びた有機のレタスは美味しかったです。最後にレタスをかじりながら、西川さんと現状の農場経営について、株式会社が農業経営に参入することの是非も含めて、参加者で率直な意見交換をおこないました。西川さんがワタミファームを選択されたのは、社長の武内智さんの人柄が大きかったそうです。武内社長は、有機農業を広げるためにも良いものをつくっている生産者のためにも、物流網や販路を持つ企業の協力が必要だと、企業の農業分野への参入の意義を述べられています。確かに、武内社長の農業・食・環境への考え方は共感できます。しかし企業の経営活動は、経営者や社員の理念や意志の強さだけで動いていくものではありません。企業活動には資本主義社会である以上、利潤追求という資本の論理が否応なく貫徹されます。そこに私は危惧を感じるわけです。株式会社の参入にはさまざまな意見があり、積極的に

議論を巻き起こしていくべきなのは確かです。少なくとも瀬棚のワタミファームが先

進的な事例として、これから先もっと注目されていくのは間違いのないでしょう。

#### (\*) 瀬棚町における「有機酪農・有機農業推進特区」について

申請主体 : 瀬棚町

区域の範囲 : 北海道瀬棚郡瀬棚町の全域

適用される規制の: 農地貸し付け方式による株式会社等の農業経営への参入の容認特例措置

※農水省ホームページより作成

#### 4. 盛り上がる懇親会



圃場見学会の後、瀬棚町の「民宿ふしみ屋」にて全員参加の懇親会がおこなわれました。冒頭の折坂代表の「失敗談を話そう。ざっくばらんに話そう」という発言どおりに、学生も入り混じって膝をつきつめて語り合い、笑いの絶えない懇親会になりました。ちなみに、会食のメニューは瀬棚の海の幸づくしで、瀬棚は農業と漁業の街であることを実感しました。ウニを一度にあんなにたくさん食べたのは、生涯初めてでした。また、諸戸さんと高橋さんから地元の合鴨米でつくられたお酒の差し入れがありました。料理もお酒も大変おいしくいただきました。懇親会一次会後の二次会では、皆で車座になりひとりひとり自分の農業への思い、苦労話などを発言しました。発言には会員の方の人柄が滲み出ており、それ

ぞれ異なった農業観をもちつつ自分なりの農業の確立を目指して、この場に、北海道合鴨水稲会に集まっておられるのがよくわかりました。皆さんのお話を聞いて胸が熱くなり、日本農業の底力ここにありと強く感じました。

長々と報告をしまいましたが、最後に圃場見学会に参加して私が感じたことを何点か述べておきたいと思います。まず、私は農業経済学を志して今年で6年目になりますが、大変恥ずかしいことに、農村地帯を訪れたことが決して多いとは言えません。合鴨農法の圃場を見たのは今回初めてで、実際に自分の眼で見られたことは良い経験になりました。そして同様のことで、現場で努力されている農家の方と交流できたことが良かったです。合鴨農家の方々は、何とエネルギッシュなのだろうと思いました。私は自分の研究課題の関係上、ある食品企業で食の安全性と労働条件の改善を目指しておられる労働者の方とお話をしたことがありますが、その方々と同じものを感じました。それは、自らの仕事への誇りと否定的な現状を変革するぞというパトス、そして温かい人間味です。今の社会を支え動かしているのは、政治家でもなく官僚でもなく学者でもありません。実際に現場で生産活動をされている生産者の方々

なのです。これは私の研究活動の上での基本的な認識、立場でもあります。生産者を大切にしなければ日本農業の将来はありませんし、生産者の立場に立たない研究活動も本質的には一体何のための研究なのかわからず得ません。こういったことを今回見学会に参加して、私は改めて認識しました。また、合鴨農法が直面している問題をいくつか知ることができました。特に、水田からあげた合鴨をいかにして流通過程に乗せ正当な価値実現をはかっていくかは、当会にとって重要な課題であることは言うまでもないでしょう。

言うまでもなく、北海道合鴨水稲会は合鴨農家の単なる“仲良しクラブ”ではありません。来るべき日本農業を担っていく農

業者の主体形成の場、文学的に言えば“溶鉱炉”であり、そのような会にしていく努力がこれからも必要です。このような北海道合鴨水稲会に皆様とともに、事務局として参加させていただけることを心から嬉しく思っていることを述べて、今年度の圃場見学会報告の筆を置きたいと思えます。



### 圃場見学会に参加して

酪農学園大学酪農学部酪農学科 4年 清水麻衣

皆さんはじめまして。瀬棚町の方、この前はありがとうございました。卒業論文で合鴨の行動を調査している清水麻衣と申します。今回、宮入さんと知り合ったおかげで、瀬棚町で行なわれた圃場会に参加させていただくことができ、たくさんの方が学べたため、ここに報告させてもらいたいと思います。

今回は5件もの農家さんの家で見学をさせてもらい、夜遅くまで合鴨の話の聞いたことが一番の収穫でした。またみなさんの合鴨に対する思いが伝わり、もっと合鴨について知りたいと思いました。今回は、合鴨水稲圃場の見学により、合鴨の飼育方法

だけでなく、今の農業のあり方について考えることができた貴重な場であったと思います。瀬棚町の皆さんはじめ、見学会に参加できたことに私は感謝をしています。未熟であり初対面にもかかわらず、いろんなことを教えてもらえたからです。

「食べる」って私たち人間に欠かせない行為だし、そのことに真剣になるって、やっぱり素晴らしいことだと改めて実感させてもらいました。また将来は青年海外協力隊になって家畜のことを教えたいと思っている私にとってもプラスになる見学会であったと思います。農家の方の一生懸命さが伝わるからこそ、食べ物を大切に頂こうと思

いました。もし、またこのような機会があったなら、ぜひよんでもらいたいという気持ちでいっぱいです。お世話になった皆さんに感謝するとともに農家さんが毎日元気に仕事をされることに期待しています。皆さんこれからもよろしくお願いします。ま

### 圃場見学会に参加して

酪農学園大学酪農学部酪農学科 4年 中村悦子

私が今回の圃場見学会に参加したのは、同大学の清水さんの卒論の手伝いという形だったので、私自身は合鴨についても、水稲についても全くの無知で、皆さんのお話を聞いて勉強することばかりでした。

自分なりの農業の進め方、鴨の飼い方、農業に対する思い、一人一人の方とお話をさせていただくと、皆さんそれぞれ考え方は違って・・・でも根底にある農業に対する思いというのは同じで、日本における農業の立場が良くなってほしいという気持ちがすごく伝わってきました。私も将来的には酪農をやりたいと思っているので、たくさん農家さんのお話が聞けたということは自分にとってすごくプラスになりました。農業には答えがなく、自分のやり方が正しいかどうかは時間がたたないとわからなくて、常に考え、そしていろいろな経験をすることによって大きな意味がある職業なんだなと実感しました。将来、自分が酪農家になったとき、いろんな考え方ができるようになりたいと思います。そして、いろんな経験をしたいと思います。

私は合鴨農法に全然知識がなくて参加し

たどこかで会えることを楽しみにしていますね☆

10月頃皆さんにアンケートをとりたいと思っています。忙しい時期とは思いますがその時はよろしく願います。

たので、わからないことだらけだったので、「農業」というものを改めて考えることができるようになりました。いろんなお話をさせていただいた皆様、本当にありがとうございました！今後も皆さんお元気で、いつまでも若々しくいてください。これからもきっと皆さんの飲み会は大盛り上がりなのだろうなあと、期待しています。ありがとうございました！



熱心にお話を聞いている酪農学園4年生の中村さん(左)と清水さん(右)

## 合鴨とともに——北大祭出店によせて

事務局 井上淳生

去る6月3(金)から3日間、北海道合鴨水稲会10周年記念イベントとして北大祭に出店しました。メニューは「合鴨鍋」と「ビール」の二つ。後に「合鴨料理の本(1500円)」と、浅野さんの奥さん手作りのマスコット人形(300円)が加わりましたが、基本的には合鴨鍋がメインのシンプルな構成です。合鴨は当別の大家さんから一羽2000円で譲っていただきました。昆布でだしをとり、大根、白菜、ニンジン、ゴボウを加え、味噌をベースに仕上げた合鴨鍋は、濃厚でありながら、あっさりとした仕上がりで、北海道合鴨水稲会PRにはうってつけのメニューとなりました。

料理への確信を胸に、事務局の院生5名が奮闘しましたが、道のりは大変でした。機材のレンタル、食材の買出し、数度の試食会など、出店にまつわる諸々の手続きを乗り越え、ようやく出店を果たした我々5人を待っていたのは、好奇と警戒の入り混じった来祭者の視線でした。

「え～！これ食べるの～？かわいそう！」

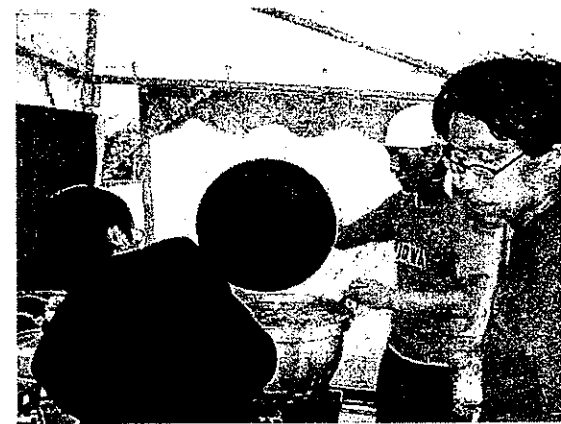
看板に貼られた「在りし日のアイガモ君達」。水稲会の主役であるアイガモ君の写真を立て看板に貼り、消費者への合鴨農法の周知を図った我々ですが、当然このような反応は予想していました。しかし、予想の範囲内とはいえ、実際このような光景を目にすると、ぐっと疲れます。出店当初、鍋が思うように売れなかった焦りもあってか、苛立ちは余計に沸きました。

確かに写真とはいえ、つぶらな瞳を投げか

ける合鴨を見た直後に、グツグツと煮えた合鴨鍋を食べるのは抵抗があるかもしれません。しかし、生きるということはどんな形であれ、他者の命を頂いているということに変わりはないのです。そのことを知ったからといって、他の命に依存して生きている事実には変わりはありませんが、その事実すら目を背ける姿勢にはやはり、違和感を覚えます。私も含め、食物の生産現場から離れてしまった人達は、自分だけは汚れない清浄な世界にいたいと思いたくなってしまうのでしょうか。

しかし、我々を勇気づけてくれる反応もありました。

「学祭の料理にしては味がしっかり出ている(家族連れの主婦)」「別に売れなくてもいい。利益をあげることが目的ではないのだから自分達の活動のPRに専念しなさい(顧問の三島先生)」「他の店にはないメッセージ性がある(朝日新聞記者)。」



合鴨鍋の出来具合を写真に収める朝日新聞の記者。

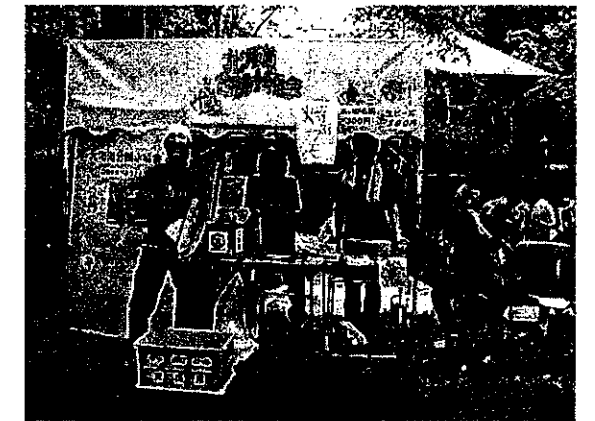
最後の朝日新聞の方は、北大祭の取材に訪れたそうなのですが、「どの店も焼きそば、

餃子など、ただ単に料理を作って自分達で楽しんでいるだけ。学祭だからそれでもいいのだけど、外来者にはおもしろくない。その点、ここは合鴨農法の周知を明確なメッセージとして打ち出している。ぜひ取材させて欲しい。」このように、熱烈な反応を示してくれる方もいて、私達を力付けてくれました。

北大祭を終える頃には、合鴨鍋の売れ行きは予想以上に伸び、当初大家さんから購入した10羽に加え、新たに2羽を追加し、それも完売して祭を終えることになりました。売上はというと、どういうわけか約2万円もの赤字になってしまい、合鴨鍋がこんなに売れたのに赤字が出てしまったことに責任を感じるとともに、最初の価格設定に問題があったのか、それとも機材レンタルや食材調達に

関する経費の計算に問題があったのか、今後明確にしていきたいと思っています。

前年活躍したアイガモ君達の美味しい姿を目にしながら、私達が日々命を頂いて生きていることを改めて感じる貴重な機会となりました。



合鴨鍋の盛況に思わず笑顔の事務局院生。



立て看板

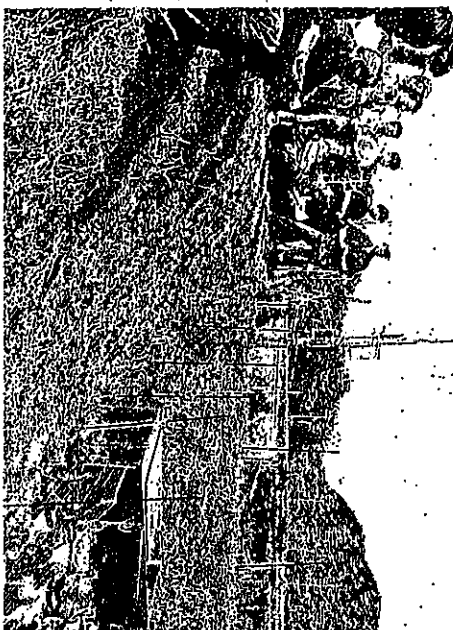
浅野さんに似てませんか?





の本田を視察し、キタキやカキを育てる方法や土づくりなどについて熱心な情報交換した。今年設立10年を迎える同会は、アイガモ農法の技術向上のため、毎年7月に会員の圃場を見学し、情報交換している。今年は豊後継書2人も参加した。同町でアイガモ農法に取り組む平田克前さん（ほしのゆめ）1・2は「アイガモ農法を取り組むことで、圃場の肥力が向上し、稲の生育が安定している。圃場の改良は、稲の生育を安定させることに効果的だ。圃場の改良は、稲の生育を安定させることに効果的だ。圃場の改良は、稲の生育を安定させることに効果的だ。」

**アイガモ農法で現地研修  
圃場見学し情報交換**  
道合鴨水稲会



アイガモ農法を導入した圃場を見学するメンバー（後山言内郷町）

**事務局よりお知らせ**

□北海道合鴨水稲会10周年記念行事について

今年で北海道合鴨水稲会も創立10年目という節目を迎えることになりました。そこで、10周年記念パーティーを来年の2月に総会とともに開催する予定です。詳しくは次号の水かき通信（第18号）でお知らせいたします。

□10周年記念誌作成について

前回の水かき通信でお知らせしましたが、「北海道合鴨水稲会 10周年記念誌」を作成することになりました。そこで、事務局からのお願いですが、記念誌作成にあたり、会員の皆様がお持ちになっている、写真・資料をお借りしたいと思っております。事務局の方の不手際により、過去の写真のストックがありません。お持ちの方は、事務局の方へメール、電話等にてご連絡お願いいたします。（事務局：田中 090-3772-7560）また、記念誌のタイトルも募集しています。皆様のご協力をお願い致します。

必要な写真・資料：圃場見学会、総会及び勉強会、合鴨フォーラム、その他行事

□北海道合鴨水稲会入会案内

当会の主な活動は、総会及び勉強会、圃場見学会、『水かき通信』の発行、全国合鴨フォーラムへの会員派遣、等です。入会されますと、行事の案内状、『水かき通信』が届きます。入会の手続きは、当会事務局に連絡していただくと入会申込書を送ります。入会申込書に記入後、事務局まで送り返していただき、あわせて年会費 3,000 円を納入していただくと入会することができます。

□水かき通信記事投稿の募集

水かき通信に掲載する原稿を募っています。随時受け付けておりますので、気軽に原稿を事務局までお送りください。原稿の形式は問いません。

□2004年度会費納入のご案内

北海道合鴨水稲会の2004年度年会費 3,000 円の納入をよろしくお願ひいたします。同封の振込み用紙をそのままお近くの郵便局へお持ちいただき、御自分のお名前を記入するだけで、その他の面倒な記入や手数料は一切必要ありません。

口座番号：02700-3-38241  
加入者名：北海道合鴨水稲会  
払込払出局：札幌北7条郵便局



## 編集後記

今回の水かき通信は、圃場見学会の報告、10周年記念行事の一環としての北大祭出店報告と充実した内容になったと思います。また、清水池君（北大大学院）が新たに事務局員として参加することになりました。事務局としても心強い限りでもあります。以下、瀬棚町のウニに釣られて加入した清水池君のご挨拶とともに、ウニ大好き事務局員達の合鴨水稲会に対する思いを紹介したいと思います。（田中）

今回から事務局に加わりました北大大学院生の清水池です。合鴨農家の方々とは今回はじめてお会いしましたが、みなさんすごそうな方ばかりで、これから先が楽しみで興奮(?)しています。合鴨農法は奥深し。そして合鴨農法を実践する人々の農業への思いは海よりも(チャレンジャー海溝よりも)深し。私の研究テーマは「合鴨と世界資本主義」(?)に決まりです。（清水池）

合鴨とともに歩む皆さんに感化されながら、日々研鑽していく所存です。（井上）

合鴨水稲会の事務局をやっていて、非常に印象的な言葉に出会いました。それは「一鳥万宝」。合鴨水稲同時作を通じて豊かで美しい世界が生み出されるというようなことだと理解しています。いっちょうまんぼう。（庄子）

今後とも皆様からの原稿も募り充実した紙面づくりに励んでいきたいと思いますので、ご協力のほどよろしく願いいたします。（事務局：田中、井上、庄子、清水池）

北海道合鴨水稲会 水かき通信 第17号

2004年8月12日発行

(連絡先) 北海道合鴨水稲会事務局

〒060-8589 札幌市北区北9条西9丁目

北海道大学大学院農学研究科

農業経済学講座

田中重貴、庄子太郎、清水池義治、井上淳生

TEL : 011 (706) 4941

FAX : 011 (706) 4179

E-mail : [taqtaq@agecon.agr.hokudai.ac.jp](mailto:taqtaq@agecon.agr.hokudai.ac.jp)